

命を守るために、今できること

足羽第一中学校 2年 西村 愛宙

夏休み、家でインターネット動画を観ていた。私

は思わぬドキドキとした。画面には、私にと

2身近な存在がある足羽川が氾らんしていた

のだ。にぎった水が流れを巻き込みながら

流れこいく。緊迫した空気が伝わってきた。

私は胸が締め付けられる予う予うを感じ

た。そして、この動画をきっかけに福井で大

規模な土砂災害が起きたことを知り、私

たちにできる防止対策をしようと思った。

福井豪雨について調べた。福井豪雨は

平成十六年7月に福井県が見舞われた豪雨に

よる災害である。この豪雨によつて九頭龍川

水系の足羽川や清滝川の九箇所が堤防が決壊

し広範囲に浸水被害が発生したという。当時

の美山町では、一時間に九十六ミリの猛烈な

雨を記録し、足羽川の水があふれ出て堤防を

越していき、街を襲った。そんな中、地域の

人は町を救おうと土のうを置いて守っていた。

もう一度映像を見た。私はこんな行動でまず  
に足震え乙しまいかもしない。けいど、人  
はほ迷いなく動いていた。だく流が家の一階  
を飲み込むほどの高さにまで達しても、命を  
守るために冷静かつ的確に行動していたのだ。  
それでも、この土砂災害により、四人の人が  
亡くなった。二十九人の人が負傷してし  
まったというだ。  
この子ら災害が起る子ら対策を  
行われというから、福井県が行っている土砂災  
害防止対策を調べてみた。福井県が行っている  
土砂災害防止対策は、大きく分けると四つあ  
った。一つ目は、斜面の補強や保護工事の実  
施。被害を最小限に抑えることを目的に、砂  
防えん堤やまう壁工事の整備が進められてお  
り、土砂の流出防止と二次災害のリスク軽減  
に大きく貢献している。二つ目は、警戒避難  
体制の整備。災害発生時に地域住民が迅速に  
安全に避難できるように警戒情報の提供体制  
の強化や避難訓練が定期的に実施が行われ

こいる。たとえば、避難所の位置や運営方法を事前に決定しておくことで、支援が必要が高齢者や障がい者への対応もスムーズになる。のだ。三月は、ハカイドマップの作成と公開。福井県では、各市町村ごとに土砂災害リスクを視覚的には握りきるハカイドマップを整備し、住民が自分の地域の危険箇所や避難経路を知ることをかびきるように支援している。さらに、防災無線や県の公式サイトを活用して、災害情報や避難勧告を確実に伝達する体制を構築させているのだ。また、危険性の高い地域を「土砂災害警戒区域」として指定し、建築物の構造規制や開発制限が行われる。この四つ目は、雨量計や監視カメラの設置。これにより、リアルタイム状況をかび握りきることをかびきる。これら二つをふまえて、私は強く思った。土砂災害という自然の脅威を前にして「備え」かあるかないか、その後の行動や生存の可能性は大きく変わってくるのだ。私たちが

日常生活の中で、いついかなる時に災害への意識が薄れがちだが、実際には、災害は予測が難しく、突如として、平穏なときにと将来起こり得る非常事態に灯しを備える姿勢が求められると思う。

「備え」とは、特別な知識を貯めておくことも、誰もが日常の中で取り組むことのできる行動だ。たとえば、非常持ち出し袋を整えるおくことだ。もしもの時のために、長期保存できる食料や飲み物に加え、懐中電灯、携帯充電器、貴重品や必要な薬など、個々の生活に合わせたものを入れたおくことだ。

また、避難経路や避難所について家族や友人と話し合い、共有しておくことだ。特に小さな子や高齢者がいる家庭では、移動手段や避難方法について細かく確認し、想定外の事態にも対応できるようにしておくことだ。

準備と心構え、この二つを意識することによって、災害時に冷静かつ適切な判断ができる可能性は高まる。日々の生活の中で防災意識を持ち

続け、小さなことでもしものために備  
えることが、未来に大きくつながること  
思う。自然災害を「しかたがない」とせず、  
「備えよう」にしてもらえることが、命を守  
る第一歩なのだ。そして何より、こうした意  
識や考え方が地域全体へと広がっていけば、  
社会全体の土砂災害の対応力も向上するだろ  
う。

この作文を通して私は、心構えをする大切  
さ、備えることの重要さを強く感じることもか  
びきた。これからは、災害を正しく恐れ、  
命を守っていった。